



「新入生諸君への期待」

岩手県立農業大学校 校長 小原 繁

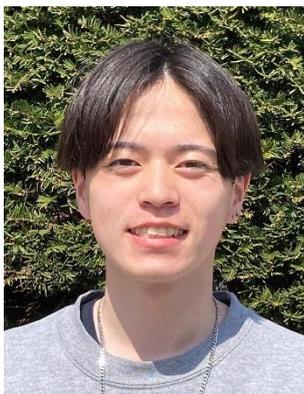
この春、岩手県立農業大学校に入学された新入生51名の皆さんを心から歓迎いたします。

さて、本校は、高度な専門的知識と技術、幅広い教養、国際性を身につけた農業・農村の担い手を養成し、社会の期待に応えていくという大きな使命を有しており、創立されて四十年余りの歴史の中で、これまで三千名を超える優れた人材を輩出し、その多くが県内各地において、地域農業を牽引するリーダーとしてご活躍されております。

我が国の農業は、グローバル化や人口減少社会への対応、農地の維持保全、農業従事者の確保、そしてコロナ禍における消費の落ち込みによる、農産物の価格下落など、様々な課題を抱えております。こうした課題解決に向け、本校においては、高度な知識と農業技術を身につけることとともに、ITを活用した新たな農業のあり方や、農業分野の情報発信の展開など、豊かな創造力と感性を持った担い手の確保が不可欠であり、新しい時代の農業を担う優れた人材の育成を目指しております。

大学校で学んだ後、学生諸君に期待することは、「大学校で身につけた知識と技術を使い、将来の農業を担う人材としての役割を果たすとともに、地域社会への貢献に努力してほしい。」ということです。私たちを取り巻く環境は、国内外を問わず絶えず変化をしております。社会の中で遭遇する様々な困難に対し、自身で乗り越えていく大きな力を身につけなければなりません。

本校は、学生諸君それぞれの目標達成と社会に貢献できる人材に成長できるよう、できる限りの支援をさせていただきます。



学生自治会長として

学生自治会長 遠藤 巧夢（肉畜経営科2年）

1年生の皆さん、御入学おめでとうございます。
そして、ようこそ岩手県立農業大学校へ！私たち2年生は皆さんを歓迎します！

私は農業大学校の自治会長として、学校行事のスムーズな運営や、学生全員が充実した大学生活を送ることができるように、学生の意見を取り入れた自治会活動をしていきたいと思っております。また、新型コロナウイルス感染症は、未だに世界規模で流行しており、本校でも日々の生活に影響を受けています。しかし、皆さんが安心して大学生活を送れるよう、学生寮でも徹底した感染対策に取り組んでいきますので、1年間よろしく願いいたします。



皆さんを歓迎します！（2年生50名）

新 入 生 メ

農産経営科



農産経営科1年 植田 大智（うえた だいち）

私は非農家であり、農業高校出身でもありませんが、農業技術を学びたいと思い入学しました。農業大学校では、農業について基礎から学ぶことができ、初心者にもわかりやすい学習内容となっています。また、外部の方々の計らいで、最新農機の操作実演や操作体験が行われ、新しい技術を学ぶこともできています。農業大学校での2年間で、より多くの知識や技術を身に付け、将来に生かしていきたいです。

農産経営科1年 柳田 成美（やなぎだ なるみ）

農業大学校は全寮制で、親元から離れて生活することになるので、入学前にはとても不安を感じましたが、入学してからは、いつの間にか同級生と打ち解け、学校生活に慣れることができます。農業大学校では初めてのことが多く、大変なこともあると思いますが、実習や授業で習うことは将来必ず必要になるので目標に向かって充実した2年間で過ごしていきたいです。

野菜経営科



野菜経営科1年 佐々木 愛花（ささき あいか）

私は、将来農業を支えていく人の一員となるために農業大学校に入学しました。入学したばかりの頃は初めての寮生活、学校生活に不安を感じていました。しかし、先輩方や、先生方から様々なことを教わり、不安も徐々に消えて行きました。私はまだ明確な将来の目標を持っていません。農業大学校を卒業するまでに、農業との携わり方や自分の役割を見つけられるように、農業大学校での勉強を頑張っていきたいです。

野菜経営科1年 堀口 詩恩（ほりぐち しおん）

農業大学校に入学し、寮生活や管理当番など初めての経験が多くありますが、今後の生活に役立つ良い経験になると思います。また、わからないことがあったとしても先生や先輩方が丁寧に教えてくれるため、とても心強いです。これからの2年間で仲間と協力して乗り越えていきたいです。

果樹経営科



果樹経営科1年 小野寺 千華（おのでら ちか）

私は高校で学んでいた果樹栽培についてさらに学びたいと思い農業大学校に入学しました。入学当初は新しい環境に少し緊張していましたが、先輩方に寮や学校での生活について色々教えていただき、たくさん友達もできて、今では楽しく過ごしています。授業は初めてのことがばかりでまだ慣れませんが、これから2年間たくさん経験を積んで、将来に生かせるように頑張りたいと思います。

果樹経営科1年 中村 太耀（なかむら たいよう）

私は普通科の高校に通っていましたが、家業のリンゴ農家を継ぐために農業大学校に進学しました。入学当初は、慣れない寮生活や初の農業専門の授業など、不安なことも多くありましたが、友達や先輩、先生に支えられ、今はとても楽しく充実した学校生活を過ごすことができます。2年間という短い期間ですが、栽培技術や経営の知識を確実に身に付けられるよう頑張ります。

ツセージ

花き経営科



花き経営科1年 佐々木 保乃香 (ささき ほのか)

私は、幼い頃から花に興味があり、花きについてもっと知りたいと思い、農業大学校に入学しました。高校は普通科だったので、農業については知らないことばかりですが、農業の知識と技術を身につけるために頑張りたいです。また、初めての寮生活で不安な気持ちもありますが、仲間達と沢山関わを持ち、充実した農大生活を送りたいです。これからの2年間を大切に過ごし、学んだことを将来に生かせるように日々努力していきます。

花き経営科1年 元村 祐太 (もとむら ゆうた)

私は、高校でフラワーアレンジメントを学び、将来はフラワー装飾技能士の資格を取得したいと考え、農業大学校に入学しました。私は非農家の生まれで、農業に関する知識や技術も無く、手探り状態ではありますが、日々の講義や管理当番をとおしてこれらを身につけたいと思っています。2年という短い時間なので、一日一日を大切に、試験や資格取得に向けて勉強に励むとともに、卒業後は資格を活かして働けるよう精一杯頑張ります。

酪農経営科



酪農経営科1年 庄司 吏希 (しょうじ りき)

私は、農業高校出身なので牛についての知識は身に付けていると思っていましたが、講義を実際に受けてみると自分の知らないことが多いと感じています。また、実習では、これまで経験したことない実習が多く、これからの学生生活をより充実させることができると感じています。寮生活では、高校での寮生活を想像していましたが、とても居心地が良いと感じています。これからの学生生活で、牛についてより一層知識を深めていけるよう頑張っていきます。

酪農経営科1年 松田 圭矢 (まつだ けいし)

農業大学校に入学して、まだ日数が経っていませんが、すごく実践的な授業が多いと感じています。英語や数学など一般教養もありますが、家畜飼養管理や家畜栄養など専門科目は踏み込んだ内容となっており、とても濃い授業内容となっているからです。また、実習では序盤から実践的な内容が多く、最初は戸惑いでしたが、次第に慣れ、対応できるようになってきていると思います。これからも気を抜かず、日々精進していきたいと思っています。

肉畜経営科



肉畜経営科1年 赤坂 創多 (あかさか そうた)

私が農業大学校に入学して思ったことは、高校とは環境が全く違うということでした。農業大学校は、牛の頭数が多く、黒毛和種のほかに日本短角種も飼育しています。また、広い放牧地に牛が放牧されている景色が新鮮で、ここでたくさんのことを学びたいと思いました。将来、私は和牛の飼育に関わる仕事に就きたいので、日々の実習や講義を通じて知識と技術を身に付けていきたいと思っています。

肉畜経営科1年 高橋 大地 (たかはし だいち)

農業大学校での生活は、様々なことを学ぶことができ、充実した毎日を過ごしています。初めは、寮の生活に慣れない部分もありましたが、今は仲間と一緒に楽しく生活しています。特に、人とのつながりは大切なので、もっともっと多くの人たちと関わっていきたいです。これからは、資格取得や苦手なことにも積極的に挑戦し、将来を見据えて活動していきたいと思っています。

入学式 ～夢と希望に向かっての決意～



新入生代表による誓いの言葉



小原校長式辞

令和4年度入学式を、4月8日（金）に挙行し、新入生51名（農産園芸学科35名、畜産学科16名）が入学を許可されました。

式典では、御来賓の方方を限定し、また在校生は、学生自治会長のみの出席として、規模縮小・時間短縮を行いました。

そのような中、担任の呼名に際して力強い返答があり、夢に向かう強い決意が感じられました。

次に、式辞として小原繁校長が、「実践教育・先進教育・全寮制教育という本校の三つの特色を理解し、目標達成に向け、意欲的に勉学に励んでほしい。そして、大学で身につけた知識と技術を使い、将来の農業を担う人材としての役割を果たすとともに、地域社会へ貢献してほしい。」と述べました。

その後、藤代克彦県農林水産部長による知事告辞があり、御来賓の五日市市長から御祝辞を賜りました。

続いて、学生自治会長の遠藤巧夢さん（肉畜経営科2年）が、「震災から11年が経過したが、復興への課題が残されている。また、新型コロナにより、学びや農業に影響が出ている。農大では、専門的実習、スマート農業、そして施設や農場の優良事例を学べる。力を合わせ、未来の農業をより良いものへと切り拓いていこう。」と歓迎の言葉を述べました。

引続き、新入生代表の高橋倫さん（果樹経営科りん）が、「これからの農業界を担う人材になるという使命感を抱いている。日本の農業を盛り上げるために何が出来るかを意識して勉強に励み、大志に向かって努力していく。」と決意を述べました。

会場は、花き経営科2年の学生がアレンジした生花で彩られ、新入生は夢と大志の実現に向けて大学校生活をスタートしました。

令和3年度卒業生43名の進路

（令和4年3月31日現在）

進路	人数	内訳	
就農	5	大仙市、仙北市、久慈市、白石市、葛巻町	
雇用就農 （農業法人等）	18	北上市機械化農業公社、やまに農産(株)、ベルグアース(株)花巻農場、キートスファーム(株)、(株)サラダファーム、(株)耕野、(株)紫波フルーツパーク、(株)菅野農園、(有)ハッピーヒルファーム、(株)岩手パイオニア牧場、(有)ファーム菅久、(株)JAグリーンサービス花巻、泉畜産、(株)権右衛門、(株)岩手ホテルアンドリゾート	
農業研修	2	宮城白石牧場、個人（北海道）	
進学	2	岩手大学農学部、東京農業大学農学部	
就職	農業団体	6	JA岩手ふるさと、JAいわて中央、JA江刺、JA新しいわて、JAいわて平泉
	農業関連企業等	1	(株)湯田牛乳公社
	公務員等	5	農業・食品産業技術総合研究機構、岩手県農産物改良種苗センター、洋野町地域おこし協力隊、岩手県立農業大学校
	一般企業等	4	能代商工会議所、(株)ユーアイ、(株)サンデー、(株)坪井花苑

今後の主な行事予定

月日	内容
6月2日	農林水産部長講話
6月24日	学生自治会スポーツ大会
7月20日～8月16日	夏期休業
7月30日、8月5日	オープンキャンパス
8月30日～9月2日	前期定期試験（本科1年）

岩手県のPRキャラクター
『わんこきょうだい』

